

IISIA Monthly Report

Intelligence to Move Forward.

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所

IISIA マンスリー・レポート9月号

2011

9

September

見え始めた「ドル後」の世界

~Future World Regime after the Dollar Collapse~

サンプル版

第1章 (緊急連載) 国際通貨体制の未来 (その1)

「ドル後」の世界を考える

~米欧勢はなぜ「赤い大国」に取り入るのか? あり得べき「トリウム本位制」という畏~

第2章 知られざる資源の世界 (その10)

未来マーケットとしての水ビジネス

~水メジャーによる激しい攻防戦と日本版水ビジネスの可能性~

第3章 東アジア・マーケットのこれからを探る (その1)

「富の東漸」とカジノ・マーケット

~伝統の産業セクターが狙う東アジア勢の富と日本の将来~

巻頭言



IISIA CEO 原田武夫

先月号（2011年8月号）のIISIA マンスリー・レポートを世に送り出した直後、歴史的な出来事が発生しました。米系格付け会社の“雄”であるスタンダード・アンド・プアーズ社が米国債の長期信用格付けを「AAA」（最高ランク）から1ランク格下げすると発表したのです。米国債の格下げは史上初めての出来事です。そのため、国際社会全体がどよめき、何よりも米国勢の中で大きな波紋を巻き起こしました。しかし「これで終わりではない」と弊研究所としては考えています。なぜならば現在、私たちの目の前で起きている出来事は明らかにある一つの光の筋とも言うべきものを辿っていると考えられるからです。それではその「光の筋」とは一体何なのか？——これがIISIA マンスリー・レポート2011年9月号のテーマです。

最初に掲げました論文「『ドル後』の世界を考える」では、国際通貨体制のあり得べき変動を追う連載シリーズの第1回目をお送り致します。急激な円高・ドル安展開を前に私たち日本勢はどうしても内向きな思考になりがちです。しかしそもそもなぜそのような急激なドル安展開が見られるのかという「根源的な問いかけ」こそ、今の私たちには絶対に必要なのです。そしてその先にある「国際通貨体制を変更する」という目標が一体何をもたらすのかを今から念頭に置いておくべきだと考えます。それでは米ドルに代わる国際基軸通貨は一体なのでしょう。そしてそれは何によって価値が支えられるものになるのでしょうか。ここだけでしか読むことの出来ない全く斬新な分析をご提示致します。

第2の論文「未来マーケットとしての水ビジネス」では、世界全体で110兆円ほどのマーケットだとも言われる「水ビジネス」の“今”と“これから”に迫ります。山紫水明と言われる我が国の企業の多くが水ビジネスに関連し、優れた技術を持っています。その一方でいわゆる「ウォーター・バロン」とも言われる米欧系の巨大コンツェルンが寡占構造をつくっていることで知られているのもこのセクターです。それでは今後、この「110兆円マーケット」はどのように行っていくのか。気になる核心的な部分に迫ります。最後に掲載した論文「『富の東漸』とカジノ・マーケット」はカジノ・ビジネスと東アジア勢との関係を描いたものです。一般に「経済」「ビジネス」といういわゆる“表”の世界のものしか語られません。しかし「水」と同じく、「カネ」の世界においてもまた流れの“表”が生じる以上、それを元に戻すためには真逆の方向で“裏”における流れがなければなりません。その典型が「カジノ・ビジネス」であるわけですが、東日本大震災の「復興策」としても語られることの多いこのビジネス・セクターは一体どれほどの意味合いを持ち、誰がどのようにして動いている業界なのでしょう。その知られざる世界を描き出します。

世界が今、音を立てて動き始め、しかもその「最終形」すら見え始めた今だからこそ、このIISIA マンスリー・レポート2011年9月号を是非ともご堪能頂き、「確かな未来」を読者の皆様の手でつかむための大きな一助として頂ければ幸いです。

CONTENTS

2011 SEPTEMBER

巻頭言	(CEO 原田 武夫)	1
目次		2
第1章 (緊急連載) 国際通貨体制の未来 (その1)		3
「ドル後」の世界を考える	(CEO 原田 武夫)	
～米欧勢はなぜ「赤い大国」に取り入るのか？		
あり得べき「トリウム本位制」という罫～		
●はじめに		
●国際通貨基金 (IMF) による提案: “déjà vu”		
●超大国による反応から見るその真意		
●“PLAN G”としての「トリウム本位制」		
【Column】		
原田武夫の読書散歩 (その23)		
「円高、そしてようやく訪れるまともな議論」	(CEO 原田 武夫)	20
第2章 知られざる資源の世界 (その10)		24
未来マーケットとしての水ビジネス	(CEO 原田 武夫)	
～水メジャーによる激しい攻防戦と日本版水ビジネスの可能性～		
●はじめに		
●「水問題」とは何か		
●「水ビジネス」の類型論		
●世界に君臨する「水メジャー」の“今”と“これから”		
●日本勢の水ビジネスに未来はあるのか？ ～課題と可能性～		
第3章 東アジア・マーケットのこれからを探る (その1)		40
「富の東漸」とカジノ・マーケット	(CEO 原田 武夫)	
～伝統の産業セクターが狙う東アジア勢の富と日本の将来～		
●はじめに		
●カジノという秘められた国際マーケット		
●拡大の一途を辿るアジア勢のカジノ・マーケット		
●カジノ・ビジネスにおける“エマージング・マーケット”＝日本を巡る攻防		
●おわりに ～日本勢における「カジノ公認」は実現するのか～		
【Column】		
IISIA 社会貢献事業コラム 「IISIA の社会貢献事業をご紹介します」		
	(社会貢献事業担当)	56
第4章 予測分析シナリオ・アップデート	(CEO 原田 武夫)	59

第1章 (緊急連載) 国際通貨体制の未来 (その1)

「ドル後」の世界を考える

～米欧勢はなぜ「赤い大国」に取り入るのか？あり得べき「トリウム本位制」という罠～

(担当執筆 CEO 原田 武夫)

1. はじめに

先月 (2011年8月)、ついに円ドル・レートが1ドル=75円台に突入。第二次世界大戦後の名目為替レートとしては最高の「円高」となったことで日本勢、そして国際社会全体が極度の緊張状態に置かれることになった。

(図表 1-1 円ドル・レートの推移)



(出典 : Yahoo!ファイナンス)

こうした極端な円高局面の進行が単に「偶発的な出来事」ではなく、(1) 一方ではドル安誘導による輸出増加を狙う米国勢による「近隣窮乏化策」であるということ、(2) 他方で富裕な諸国勢から国富を合法的に篡奪するという戦略を取っている米国勢からすればこうした事態の進展を受けて日本勢が(退蔵していた富をもって)円高介入を行い、その結果外貨準備に大量に流れ込むドルが最終的には日本マーケットにおけるバブルを引き起こすことは必至であり、そこから裨益するという“伝統的な”戦略によるものであること、(3)

第2章 知られざる資源の世界（その10）**未来マーケットとしての水ビジネス**

～水メジャーによる激しい攻防戦と日本版水ビジネスの可能性～

（担当執筆 CEO 原田 武夫）

1. はじめに

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大地震は日本全国に深刻な影響を与えた。とりわけその直後に発覚した東京電力・福島第1原子力発電所の被災とそれに伴う放射性物質の拡散という未曾有の事態は、普段何気なく日常的に使われているモノのマーケットからの消失を招き、大混乱を引き起こしたことは記憶に新しい。

とりわけそこで首都圏を中心にパニックを引き起こしたのは通常であれば量販店などの店頭で並んでいるはずの「飲料水（ミネラル・ウォーター）」の不足であった。首都圏では「安全な飲料水不足」の噂が噂を呼ぶ展開となり、買い占めが横行。ガソリン不足で物資の運搬もままならないこともこれに重なり、店頭から水が消えた。そして今度はこれが地方における買い占めを招く結果となり、日本全国でミネラル・ウォーターが消えるという異常事態になったことは記憶に新しい。

我が国は古来より「山紫水明」の国と言われてきた。そのため殊「水」に関してはすぐそこにあるもの、必ず供給されるものであるという意識が社会の中で根強くある。しかし、世界を見回すと決してそのようなことはなく、むしろ「水問題」こそが国際情勢の変動における根幹にあることに気付く。その上で今回のような事態が決して1度限りのことではない危険性があることを考えれば、日本勢においてすら「水問題」は決して他人事ではないことを常に念頭に置いておく必要があるのだ。

このように「東日本大地震後」の日本にとっての水問題は二重性を孕んでいる。すなわち一方において日本以外の世界全体において長らく続いてきた「水問題」に対してどのように対処していくのかという課題であり、他方でリスクマネジメントも含め、我が国国内



東日本大震災後に店頭から消えた
ミネラル・ウォーター
（出典：Gree News）

第3章 東アジア・マーケットのこれからを探る（その1）

「富の東漸」とカジノ・マーケット

～伝統の産業セクターが狙う東アジア勢の富と日本の将来～

（担当執筆 CEO 原田 武夫）

1. はじめに

去る3月11日に発生した東日本大地震。それによって生じた甚大な被害を乗り越え、「復興」の呼び声が高まるにつれて、一つの声が高まりつつある。それは「復興のためにカジノ・ビジネスを用いてはどうか」という声である。

後述するとおり、カジノには単に射幸心を煽り、それによって莫大なマネーの移動を人々から促すという側面のみならず、「24時間操業」が基本であることから雇用の確保にもつながる他、付近のインフラや宿泊施設の整備が進むといった一定の経済効果を伴うものであるという議論がある。今次大震災に際しては福島第一原子力発電所の被災という未曾有の事態が生じたため、必ずしも全ての被災地域についてあてはめられるべきビジネス・モデルではないが、それでもなお一考に値するという声は根強くあるのが現状である。

そこで本稿では、(1) 国際社会全体におけるカジノ・ビジネスの現状と見通しについてまとめた後、(2) アジア地域における最近の主な発展動向を概観し、(3) その上で現行法令ではいわゆる「カジノ」が認められていない我が国における“現状”と“これから”について考察することで、こうした議論に対する回答を模索することとしたい。

（図表 3-1 カジノでスロット・マシンに興ずる人々）



（出典：Wikipedia）

執筆者プロフィール

○原田武夫（はらだ たけお CEO）

1971年生。

1993年東京大学法学部中退

（2003年に独立行政法人大学評価・学位授与機構より法学士号を取得）。

1993年より2005年まで外務省にて勤務（外務公務員I種）。

ベルリン自由大学政治学部、テュービンゲン大学法学部、ドイツ外務省にて在外研修。

2005年より現職（2007年より株式会社化に伴い、代表取締役就任）。

[免責事項]

※この調査レポートの無断転載および購読契約者以外への無断転送は固くお断りします。

※この調査レポートは、特定の金融商品の売買を推奨するものではありません。

金融商品の売買は購読者ご自身の責任に基づいて慎重に行ってください。弊研究所は購読者が行った金融商品の売買についていかなる責任も負うものではありません。

[お問い合わせ先]

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所

TEL 042-537-7750 FAX 042-537-7751

2011年度夏・中期予測分析シナリオ

「ヴィーダーゲブルト ～再誕～」のお知らせ

2011年度夏・中期予測分析シナリオ

Wiedergeburt

ヴィーダーゲブルト ～再誕～



IISIA  株式会社原田武夫国際戦略情報研究所

2011年度夏・中期予測分析シナリオ 「ヴィーダーゲブルト ～再誕～」

定価 ¥15,000 (税込)

2011.3.11. あの日から始まった“新しい現実”。

何が変わり、これから何が起こるのか——

日本と、そして世界の“再誕”がここから始まる